

会 議 録

会 議 の 名 称	第5回宍粟市市歌制定委員会	
開 催 日 時	令和6年10月16日（水）19：00～21：17	
開 催 場 所	宍粟市役所本庁舎 3階庁議室	
委 員 長 氏	野村 和男	
委 氏	員 名 （出席者） 小野 嘉昭・前野 尚子・中田 郁子・ 久住 ゆき奈・長野 堯・嶋村 郁子・ 山村 晶・山木 美香	（欠席者） 幸長 咲良
事 務 局 氏 名	市長公室 中尾次長、西川次長兼秘書政策課長 市長公室秘書政策課 藤原副課長兼係長 委託事業者 音楽制作 SHIOKAWA	
傍 聴 人 数	1 名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	（議題及び決定事項） 公開・非公開	（非公開の理由）
議 題	協議事項 （1）作詞案の検討について （2）曲調の検討について	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 （記名）	委員長 野村 和男	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	～開会～
委員長	本日は前回の会議に続き、歌詞について再検討をする内容となっています。よろしくお願いします。
事務局	それでは、次第3の議事に入らせていただきます。委員長の進行でよろしくお願いします。
委員長	それでは議事に移らせていただきます。本日の議事の第1点目は作詞案の検討について、そして2点目は曲調の検討について議事を進めさせていただきたいと思います。それでは、事務局から作詞案の検討につきまして説明よろしく願いいたします。
事務局	本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は1名傍聴ということでお越しいただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたしますと思います。 前回9月26日の会議で皆さんの御意見を頂く中で修正点を3点、音楽制作 SHIOKAWA に依頼しました。1つ目は、「グリーングリーン」の歌詞は他の有名な曲が真っ先に頭に浮かび、宍粟市の市歌としてイメージができないので、「グリーン・MY CITY」の歌詞の変更の依頼をさせていただきました。2つ目は、「下を向いて・・・」で始まる場所がありますが、「下」の表現はマイナスのイメージがあるので、「下」の表現を変更し、プラスのイメージから始まる歌詞の変更を依頼させていただきました。3点目は、宍粟市は揖保川と千種川が流れる町でありますので、「揖保の大河の雫」の「揖保」は、一方だけを現わしていることとなっております。そういったことから、「揖保」の変更依頼をしました。以上3点の変更を依頼し、本日、皆さんに再度修正案を配布させていただいております。また、作詞家から歌詞の作成に当たり、趣旨などのポイントの説明があります。今日は修正案を見ていただいて、このままでいいのか、また一部修正が必要なのか、そういったところを委員会でもとめていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。
委員長	それでは、手元に作詞案がありますので、皆さんで目を通していただきたいと思います。1分ほど時間を取りますので、1回見ていただけたらと思います。よろしく願いいたします。 それでは、作詞案につきまして委員の皆さんからご意見を頂戴したいと思います。この案についてこのままでいいのか、また一部修正が必要なのか

事務局	かというようなことにつきましてまとめていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それでは、順番に御意見をお伺いしたいと思います。まず、事務局から説明してもらいます。 両面コピーで配布をさせていただいております3点のうちの「下」の冒頭から始まるところに対して、その表現を変えて欲しいということの依頼をしておりましたが、引き続き「下を向いて・・・」というところから始まっています。そのことについて作詞家から御意見をいただいております。この表現について、これには2つの理由があり、1つは5から6行目を効果的にするためにこの「突き抜けるような青空」と「はらかな稜線」に視点が切り替わったときの鮮烈な印象は下からぱっと見上げなければ生まれない感動ですと、言葉だけに捉われれば「上を」とか「虹が」とか「季節」とか「気付くこともある」などと書くこともできますが、心に響く歌にはならないでしょう。もう1つは2節の1から4行目との兼ね合いです。この部分は歌の中のメッセージに当たる箇所です。決してマイナスなことを言っているわけではありません。歌詞に「下」とか「淀む」とか入っていますが、「見えない」「気付かない」「淀むことない」と否定の言葉を用いることでより強いメッセージを発することができるということで、「下」をあえて使うことで強烈なイメージが持たれるということと、それと次につながる言葉を連想する中で、あくまでこの「下を向いている」というところを使っているのですが、後ろにつながることを表現するために「下」を使っていると、こういうところを作詞家から御意見いただいております。
委員長	これを踏まえまして、順次委員から意見ををお願いします。
委員	このように作詞家の先生が言ってくださって、なるほどなあというふうに私は納得したというところと、後、自分は個人的に納得している部分はあるのですが、これを市民の方々がぱっと歌詞を見たときにどう思われるか、どういう印象を与えてというのが大事なかなというふうなのは少し私の中で思っていて、私的には全く違う歌詞を1つ考えてくださるのかなと思っていたので、そこの部分がどういう意図なのかということもお聞きしたいなという部分があったのと「グリーン CITY」の意味合いなどというの、どういう感じなのかというのは少しお聞きしたいと思います。
委員長	次の委員さんはどうですか。
委員	「MY CITY」というこの字面だけを見たら、ちょっと違和感があるなという感じで思いました。その「下を」を2番に変えたらどうかというのを簡単に素人考えでは思うようなところです。

委員長	次の委員さんお願いします。
委員	正直なところ、もっと変わるかなという想いが少しあったので、「グリーン CITY」が残っているというのが、もっと何か違った表現とかになるのかと思っていました。色々変えてくださっているところや作詞家の先生がこういう意図で書いていますというのを改めて書いてくださっているのですが、どうしてもやはりサビというのは曲の顔というのがありますので、何かこう少し自分は腑に落ちてこないという感じです。
委員長	次の委員さんお願いします。
委員	前回欠席して少し話し合いの内容についていけないところがありますが「下を」というのは前回、とても議論になったようですが、ずっと読んでいくと、視点が段々上に向いていって、最後、見上げるというか、そういう感じがあるから、ずっと下を向いているわけでもないし、それを「色んなところを見てごらん。」というふうに強調するために下というのが出てきたのかなというふうに自分的には考えて、さほど違和感はなかったです。1つだけ気が付いたのですが、前から4行目の「気付かない」の「付く」は漢字で書いてあるのですが、もう少し柔らかさを出すために、「づ」のほうがいい感じがしました。
委員長	次の委員さんお願いします。
委員	前回の分と見比べながら今考えていたのですが、その出だしの「下を」で始まったこの否定から入るところに対する作詞家の先生の意見を一通り読んでいて、裏側の否定の言葉を用いることでより強いメッセージを発することができますというところで、なるほどというふうに私の中では納得できました。やはりこうして、先生の意見を直接聞かないまま今日や前回とかどンドン色んな方向に話がいつていたのも、それはこの会議の難しいところでもあるのかと改めて思いました。 あとサビのところですが、私が前回ちょっとメモした中では、一応、修正のお願いの中でカタカナ英語なしで、みたいなことを少しメモしていたので、私みがらっと変わってくるのかなと思っていたら、グリーンの繰り返しはないですけど、CITYも残っている、グリーンも残っているってところで、やっぱりこれはそれだけ先生が思いを込めてサビに入れてくださっている言葉なのかなと理解して、前回委託事業者からおっしゃってくださっていたようにこれが曲に乗ることで、もしかしたら、すごい、いい歌だなと思える方向で私は期待したいと思います。 あと、固有名詞の揖保というところがなくなって、宍粟の川全体を考えられるような表現にしているのもありがたいと思いました。

委員長	次の委員さんお願いします。
委員	私は前回と同じで、とてもいい詞だと思っています。ただちょっと前回と、比べて揖保という固有名詞がなくなったというところがあるので、宍粟らしさというか、最初に言われた3つの視点というところの地域性というところで少し薄れたのかなと感じています。ただ、サビのところは、グリーングリーンの繰り返しがなくなり、できる範囲で委員の意見を聞いてくださったのかと思っています。詞全体的にはいいと思います。ただ、宍粟らしさというか、宍粟ならではの、地域性っていうところは若干薄れたかと正直感じています。
委員長	委員お願いします。
委員	詞を作るのは難しいと思います。私は下を向いていたらっていうのが、簡単に言えば下降ということなので、マイナスのイメージがすごく強くて、やはりまだ下を向くから始まるっていうのが2行目とか3行目なら、いいという気はするのですが、いつまで言っても仕方がないところもあるので、他委員が言われるように、ある程度、妥協していかないと仕方がない部分があるのかという面と委託事業者が、僕がかわりにここで聞いていますのでということと言われて、カタカナやアルファベットを外すという、ことだったのですが、それでもなお使われるというのはやっぱり、これをどうしても使いたいという意図か、ということだと思います。
委託事業者	緑とか、そこがやっぱり歌のテーマみたいなものに持っていかれたのかなというふうに思います。だから今までにない表現をすることによって、斬新なものをつくりたいという、上を向いていたらとか、こういうベタなやり方よりも、逆に下をというのは何これって言うぐらいのほうが面白いのではないかと感じます。そういうことを多分狙われたのではないかと思います。皆さんの意見は全部作詞家のほうに言っているのになぜそういうことになるのかは、ここに書いてあるこの通り、僕が説明するよりも書いてある文章読んでもらうのが1番で、作詞家がそれだけ緑とこのグリーンというものに対しては強烈な思いがあったのではないかなと思います。
委員	何回も同じことの繰り返しになりますが、妥協していくしかないかという気はします。他委員が言われた気付くを平仮名のつにするというのは、それもいいかという気がします。
委員	前回から一部修正していただいて、新しい歌詞を頂いたのですが、私

	自身宍粟市がC I T Yというような感じ方がなかったので、歌詞としてC I T Y宍粟が出てきて、我々になじみにくいかと思ったりするのですが、自然とまた愛着を持ってくるのではないかなというように思っています。私個人としたら、今回はグリーンC I T Yなんですけど、グリーングリーンC I T Yのほうが、歌いやすいかというような感じを持ったりしておったのですけれども、みんなで歌うことによって、グリーンC I T Y宍粟が、どうにか馴染みのあるものになってくるのではないかとということも思っております。皆さんのほうからいろいろと修正されましたグリーンC I T Y宍粟の歌詞について様々な御意見を頂いたのですけれども、やっぱりグリーンC I T Y、片仮名と英語があるについてはちょっとなじみづらいというふうな御意見が出たのですけれども、この点につきまして、ちょっと皆さんから御意見いただけたらと思います。
委員	私個人的なことをいうとやはりちょっと違和感はあるのと、曲に載せてみないと分からないっていう部分はあるのですけれども、市民の方がこの曲いいな、歌いたいなって思って歌ってもらえる曲だったら私はいいなっていうふうに思います。
委員	文字数が同じならまだ変えられるということを前に言われていましたよね。
委託事業者	基本的には字脚をそろえるという意味ですけど。それは大丈夫だと思います。
委員長	もし変えるとしたらどういうふうな言葉になりますか。
委託事業者	作詞家はものをつくるときに、構成というのは非常に考えて、意味が通るようにしており、作曲の力になっていくとは思いますが。例えば英語であるとか、日本語であるとかっていうのもすんなりと曲のほうでうまく処理できれば、そこまで違和感はないのではないかなとは思っています。でも、皆さんの御意見は、非常に大事です。
事務局	委員がおっしゃったようにまずグリーンの二つ連なっているところをやっぱり一つにされたという作詞家の意図と英語なりカタカナの表記をあえて残されたという何か思いというのは、作詞家のほうから何か聞かれていますか。
委託事業者	特別に聞いてないです。 色で表現したかったのだろうと思います。緑のまちであるという山のイ

	メージとかそういうのがあるのではないかと。
事務局	一度曲が載ってから聞いてみたいという意見があったのと、作詞家さんの思いがあって、やっぱり宍粟の町をとらえたときに、いろんな言葉の中でもやはり緑のまちをあえてこうグリーンという言葉で、表現されるという意図を汲んで、なかなかこうマッチしないところはその曲の字数に合わせて修正をするということになるのですが、いよいよそのところを皆さんもう一度、どうされるか御意見を頂けたらと思います。
委託事業者	只今、事務局からの意見を頂いてこれは私の個人的なところですけど、このグリーンCITY宍粟とかいうあたりも非常に、視覚的には決まってくるのではないかなというふうに思います。
事務局	やっぱり歌詞って見方で違くなって素人ながらにも思ったのです。あえて、違和感がある言われたんですけど、縦書きや横書きでちょっとイメージが変わってくるのかなと思います。
委員	ものすごく言いにくいことですけど、作詞家としてのやっぱりプロのプライドみたいなものがあるから、それは、あんまり、さわってほしくないという思いが、強いかなという思いがして、だから届かないのかなと思います。恐らく、そういうものはプロとしてやってきておられるし、この下からの表現についても、簡単には崩れないものなのかなという気がしています。申し訳ありません。だから、妥協ということはおかしいですけど、これで言われているようにメロディを載せると、すごくよくなるかなという期待をするのがいいのかという気がします。
委員	皆さんも多分感じていらっしゃると思うのですが、「全員が気に入るまで考えて出してこい。」というのは違うと思っているのです。あくまで僕らがお客さんではないので、市歌を作るという、市が発注してやっていることなので、僕らは詞を作る市歌を作るのが変な方向に行かないようにとか、市民としての意見をそこに入れるとか、それが僕ら役目だと思っている、1から歌詞を作り上げるとか、曲を僕らが作曲して作り上げるというのはちょっと違うかなと思っているのが正直なところなんです。出てきたもので、私は個人的にはいいと思うのですが、やはり引っかかる場所があるので、そこを変えとなると、具体的に「こういうふうに変えてくれ。」とか、多分こっから言わないと「気に入るのが出てくるまで作り直してくれ作り直してくれ。」だったら違うと思います。言うのであれば、具体的に「この歌詞にしてくれ。」とか、「こういう言い回しにしてくれ。」とか、「何となくこれは嫌だ。」出てきたものに「嫌だ。嫌だ。」というのは簡単なのですが、じゃあどうするのかと僕は思っています。

委員長	さっきも言ったのですが、今我々は「グリーン CITY」とか「MY CITY」というものに馴染みがないのですが、ずっと歌いこんでいったら馴染みのあるものになってくるのではないかというような感じもするのですが、ここにきちんと「グリーン CITY」に我々がしていったらいいのではないかと思います。「愛着があるグリーン CITYに我々がするのだ。」というように。
委員	宍粟市側としてはどんな感じなのですか。我々の意見はこんな感じなのですが。
事務局	この委員会の役割は幅広く市民等の代表として意見を言うていただくこととしており、作曲や作詞にご意見をいただき最終的に市歌を制定していくとなります。ただ、専門的なところがもちろんあるので、専門的なところは市が契約した事業者にも担ってもらうこととしています。
委員長	今、事務局のほうから説明と解釈がありましたが、皆さんの想いをもう少し聞かせただけたらと思います。
委員	作詞家の作詞に当たって、「スーツネクタイではなくて、ジーンズTシャツの歌を作ることになりました。」ということは柔らかいリラックスできるという、そんな感じの曲が載るのだろうなど。そうなってくると「グリーン CITY 宍粟」が生きてくるのではないかと思います。これが「緑のまち宍粟」だったら、何か普通でしょう。普通になってしまうから、そういう見せ方というのではないですが、同じものをどういうふうに提示するかということになると、今までの市歌とは違うものを作っていこうという最初の議論があったと思うので、皆が歌いやすいという、そういう市歌を作れたらな、ということでこれまで話が進んできたと思うので、そういう感じから言うと、いけるのではないかと思います。全然関係ないですけど、僕、たまたま昨日、家で庭いじりながら「カントリーロード」がふと頭の中に出てきて、何か昨日からずっと頭の中で鳴っているのです。確かにいい曲だなというふうに思って、この「グリーン CITY 宍粟」がそのようなサビができたらいいいのに、と思いました。
委託事業者	多分ジーンズで云々というのをおっしゃっていたということは、今までの士気を鼓舞するような応援歌的なそういう市歌ではなくて、ちょっと違う視点から見たら、虹が見つかる、これ肯定から始まりますよね。最初から言葉にとってもインパクトのあるものを用いたというのがここに書いてある力強さ、逆にそういう歌は今までないのです。だからこそ、これが光る言葉ではないかというのはこれ作詞家側の意見です。言って

	みると中身なのです。私も「下を向いたら」などという歌は初めて見てどきっとしました。ということは、それだけ言葉として強い、その後がどうなるのかというのは、下から見上げていく宍粟のまちのイメージ、色々資料を見られてそういうのが頭に入って、こういうふうになったのだと思うのです。私も今まで非常に沢山作らせていただいています、なかったと思います。それがいいかどうかは皆さんの考え方ですが、ジーンズで歌う歌がここからこういうふうに変えたのだというのは直感的に感じました。「美しいまち」とか何とかそういう句を並べるのではなくて、少し言葉としてはきつい言葉かもしれないけど、そういうほうが面白いのではないかということではないかと思います。
委員	市歌を作るにあたって、1 番最初に集まったときはまっさらな状態で、そこから市民の皆さんから沢山フレーズをいただいて、委員会で沢山話し合って、作詞家の先生にお願いして、修正依頼して、やっとここまで来たと思ったら、少し感慨深いものもあるのですが、先ほど、幾つか意見が出ている中でやはりどこか引っかかる部分があったり、全員が隅々まで納得できなかったりというのは私も仕方ないかなというところはあるのですが、私の意見としては、先ほども言いましたとおり、曲に載せていただいてというよりは、もういい曲を付けていただけると信じたいと思います。そこから、また考え方というか市歌として受入れているのか、「やはり」となるのかわからないですが、私の意見としては曲を付けていただいたものを聴いてみたいという気持ちです。
委員長	曲が付いたらいいものになるかもしれないのですが、その辺のところもあって、今は作詞案という格好でこれが出てきているのですが、このままの格好でいいのか、それともこの箇所は直してもらえたらというように言っていた上で、今日はある程度、前へ進めるようなところまでいっておかなければいけないのだろうかと思います。その歌詞で前に進んでいったらいいものかどうかというようなことを皆さんで検討をお願いしたいのですが、併せて曲調などについてもこういう歌詞になった場合、曲調をこういうふうな格好にしたらかいような意見もあるのではないかと思いますので、それも付け加えた上で 1 回皆さんの意見をお伺いできたらなと思います。「グリーン CITY」「MY CITY」というのは、何もない状態でしたら、馴染みは市民の皆さんに 1 番最初は何も言えないと思うのですが、歌い込んでいったら段々馴染みのある思入れのあるようなフレーズになってくるのではないかな、というような想いはあります。曲を付けてもらわないとその辺のところもはっきりしたことは見えないところでもあるのですが、これの形で前へいってもいいものかどうかというようなところを皆さんにもう一回、お話を聞かせていただきたいと思います。

委託事業者	作曲家は、ものを見たときの感じで作りますので、それを皆さんに後で聴いてもらって「こういう感じのものが欲しい。」とおっしゃっていただければ、そういうイメージは伝えます。デモテープで、2案出します。その2案について、具体的なものがあればおっしゃっていただければ、その旨は作曲家にはちゃんと伝えます。
委員	作曲家はもう決まっているのですね。
委託事業者	はい
事務局	作詞家の気持ちも理解しながらですが、この委員会10名の方が良いと言われましたら、市民の方も、おおむね理解を頂けるかと思います。
委員長	委員がおっしゃる、このグリーンCITYという言葉が、市の歌として表すときにそれが今の時点で何かこうしっくり、もうとにかくしっくりこないという、感覚ですよ。
委員	皆さんがそれでいいのなら。
委員	委員も私もなんですが現場にいる者として、選んだからには、責任もあります。
副委員長	全員が納得するのは多分難しいのではないかなと思うので、もう進んでいけないといけないと思うので、これだけ話をして、具体的にいいのがでないのであれば、いったんこれで進んでみるのもどうでしょう。
事務局	今日この場で結論が出ない状況で、1つの方向は一度整理を何とか頂くほうがいいのかなと思います。曲に一度歌詞を載せてから、やっぱりこの違和感がある歌詞を変更したいとなれば、その段階で変更することは非常に難しいのですか。
委託事業者	字脚さえそろえば変更は可能です。ただ、サビの部分は、やはり耳に残るところで1番盛り上がるころなので、そこを上手に合わせて曲を作っています。でも10人いたら10人にそれぞれの思いがありますので、10人全部賛成というのはどんな曲であっても詞であってもそれはもう無理な話です。極端な言い方としては、もう6割7割がオーケーなら、変な言い方ですけど、それでもいいんじゃないかなというふうに思っていたくのも一つの方法かと思います。
副委員長	どうでしょうか。それこそ、期限もあり、色んなことがあるので、い

	つまでもというわけにはいかないし、何回も言われているように、10 人が全員、「これはいい。」と言われることも多分ないと思うし、私は逆にまだ「下を向いたら」に拘っているのですが、皆さんが言われるので諦めましたが、だから、ある程度妥協しなければいけないところもあるのかなと思いつつなのですが、難しいですか。 曲、メロディは2案出てくるのですよね。
委託事業者	そうです。案としては2案出します。少しタイプの違うものに多分なると思います。響きからも先ほど言いましたように、1つはギターで1つはピアノというふうには考えています。少しいメージを変えたほうが同じ方のトーンで、2曲聴いても、メリハリというのがないと思うので、少しそこは工夫してみます。
委員	改めてこの直筆の先生の想いを見たのですが、やはり非常に想いを込めて作られているのは間違いないですね。信じてみようかな、という気持ちになっています。
事務局	どうですか。託すという総体的にそういう意見をいただいて、皆さんの本当の御理解の元、前にやはり進むべきことなのでしょうが、なかなか、色んな意見がある中なので、委員の今おっしゃっていただいている、託すという部分でどうかと思います。
委員長	色んな想いはあるかと思うのですが、それこそ作詞の先生も色々考えたりもされると思うので、できたら託してみようかなと私は思うのですが。
副委員長	それこそ、すっきりとはしない方もいらっしゃると思うのですが、この案で一応、作曲家の方に託すということによろしいでしょうか。
委員長	曲調のほうなのですが、これはもう作曲の先生にお任せするような格好でどうでしょうか。
事務局	やはり大きな食い違いがあってはいけないので、ギャップを可能な限りなくすということではもう一度会議を持たせてもらうほうがいいのかなと思うのですが、そうすることで、より納得がいただけるデモテープになってくるかなと思うのですが。
副委員長	まとめると、曲調を決める、どういう方向でいくかというのを今日ではなく、もう1回会議するということですか。
事務局	もう一回時間を持っていただいて、曲調を議論するほうがいいのか

副委員長	と思うのですが、皆さんから意見いただけたらと思います。 10月末か11月上旬で会議を持たせていただくことは可能でしょうか。
事務局	それでは、10月21日で会議室を確認させてもらって御案内させていただきます。曲調について1曲でもいいので、こんなイメージだというものがあれば、検討いただけたらと思います。
副委員長	多くの意見がありましたが、前を向いて進めていきたいと思います。本日はありがとうございました。 ～以上をもって終了～